

甲斐市立敷島中学校 自己評価書（平成30年度）

平成31年1月18日（金）作成

校長 長田 靖

記述者 教頭 樋川 和之

学校教育目標

「一人一人の個性を伸ばし、自ら学ぶ生徒の育成を図る」

- 自ら学ぶ生徒（知）
- 心豊かかな生徒（情）
- よく働く生徒（意）
- 体を鍛える生徒（体）

学校経営目標

- (1) わかる授業づくりと確かな学力の育成
- (2) 豊かな心と望ましい人間関係の育成
- (3) 愛情と信頼・生徒理解に基づく生徒指導
- (4) 安全で安心の学校づくり
- (5) 開かれ、信頼され、地域に誇れる学校づくり

1 全体評価

〈自己評価より〉

- ・51の質問項目によるアンケート形式で、全教職員（37名）から回答を得た。
- ・すべての項目において、A評価又はB評価が最も多い回答割合であった。
- ・A評価が最も回答割合が高かったのは15項目、B評価が最も回答割合が高かったのが36項目であった。また、C評価とD評価を合わせて10%（1割）以上の評価があった項目は、51項目中22項目あった。

〈生徒アンケートより〉

- ・27の質問項目によるアンケート形式で、全校517人中501名からの回答を得た。
- ・肯定的回答率が高かった（目安として80%以上）ものは、27項目中、16項目あった。
- ・肯定的回答率が高くないものについては、生徒の実態としてきちんと受け止め、分析をし、改善していく必要がある。

〈保護者アンケートより〉

- ・25の項目で、498名の保護者からの回答があった。
- ・肯定的回答率が高かった（目安として80%以上）ものは、25項目中14項目あった。
- ・回答から、敷島地区の保護者の、教育への関心の高さがうかがえる。また、「地域の行事への参加」「読書の時間数」については、課題として分析をし、改善していく必要がある。

【来年度に向け、改善が必要と考えられる内容】

① 学校教育目標・学校経営について

- ・PDCAサイクルに基づく実践を確実に行っていく必要がある。学校教育目標の実現に向け、学校経営方針に対する理解をさらに深め、学校や学年の教育活動計画に基づき、実態に合わせた実践を継続する。

② 学校運営について

- ・全教職員が学校運営への参画意識をより強く持つ。各自が校務分掌に基づいて職務を行うとともに、分掌以外の職務に対してもより積極的に関与していく意識をもつ。また、各自の実践が組織の中でより機能していくようにする。

- ・日頃から「危機管理」に対する意識をより高めるよう工夫する必要がある。
- ・職員会議が教育活動全般における共通認識，相互理解，協力体制を築く場となるようにする。
- ・教職員同士が，連携・協働し，校内研究を組織的に進めていくことで，同僚性を高め，学校の活性化を図っていく。

③ 学習指導について

- ・「個に応じた授業」，「わかる授業」，「学びの意欲を喚起する授業」づくりを推し進め，一人一人に確かな学力を身につけさせる。
- ・校内研究のテーマである「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて「やまなしスタンダード」7つの視点を中心に，積極的に日々の授業改善に取り組む。
- ・宿題や家庭学習に対する指導を行う。家庭学習については，授業との関連を考慮した課題を考える。

④ 生徒指導について

- ・情報の共有を，より積極的に行い，指導方針の共通認識を図り，組織的な取組を強化する。そのため，「生徒指導部会」や「不登校対策委員会」などの会議がより機能するよう，担当を中心に工夫していく。
- ・課題を抱えている生徒や家庭に対し，外部機関との連携を含め，粘り強い指導を継続する。
- ・特別支援教育の体制の整備をより充実させる。

⑤ 地域との連携について

- ・HPや各種たより等を通して学校からの情報発信を積極的に行う。また，地域や保護者の声を積極的に聞き，連携を深めることを通して学校運営組織の改善と活性化，開かれた学校づくりをすすめる。
- ・地域の教育力を生かし，より地域とともに歩む学校づくりを行う。そのために，地域の人材や施設を活用するような取組も考え，実践していく。

⑥ 学校の特色について

- ・あいさつを進んで行う指導を継続して行う。
- ・生徒がより主体的に読書活動や合唱活動に取り組むための指導を継続させる。
- ・「鍛練」「有価物回収」など本校の特色として行っている教育活動は，その目的や教育的意義を全職員で共有し，今後も充実した活動となるよう継続指導していく。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育目標が学校経営方針を踏まえたものになっており，多くの教職員は学校長の経営方針に基づいて，課題意識や参画意識を持ち，教育活動を行っている。 ○学年の教育活動計画は，教育目標や指導重点を踏まえたものになっている。 △PDCAサイクルに基づいた教育活動が概ね実践されているが，さらに学校全体として組織的なサイクルになるようマネジメント機能を向上させていく必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標のさらなる具現化を目指し，あらゆる活動でPDCAサイクルを取り入れた教育活動を行い，改善，向上を意識した学校運営を行っていく。 ・各種教育活動を，例年通りといった認識で実施するのではなく，生徒の実態や反省を踏まえ，その目的や意義を再確認し，工夫改善を重ねていく。 ・職場の福利厚生，健康管理をより充実したものとしていく。

II 学校運営について	
達成状況	<p>○諸表簿や文書、記憶媒体の管理が適切に管理・活用されており、個人情報保護・情報セキュリティへの管理意識が高い。</p> <p>○安全点検が定期的に行われ、校舎内外における異状が速やかに報告されている。</p> <p>○報告・連絡・相談・確認が日常的に行われ、縦・横の連携ができている。多くの教職員が、相互理解や信頼関係を深めようと意識して、教育活動にあたっている。</p> <p>○教職員は、コスト削減等、職場環境改善に積極的に取り組んでいる。</p> <p>△職員会議や校内研究に主体的・積極的に関わる割合が前年度よりも下がっている。</p> <p>△防災・防犯等に対する、危機管理マニュアルの理解が深まっていない。</p> <p>△生徒指導上の問題への組織的対応をさらに進めていく必要がある。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が、より主体的・積極的に職員会議や校内研究に取り組む意識をもつことが求められる。 ・危機管理に対する意識向上のため、マニュアルの徹底や訓練や研修の充実が求められる。不測の事態における、主体的で迅速・適切な対応ができるような取組も重要。 ・教職員が今まで以上に、生徒指導上の問題に対して共通理解・組織的対応を行う。

III 学習指導について	
達成状況	<p>○基礎基本の定着を重視し、学ぶ意欲を育てる授業づくりや民主的な集団づくりを多くの教職員が継続的に行っている。</p> <p>○校内研究と関連づけ、やまなしスタンダードを意識した授業改善に向けて、教職員が積極的に取り組んでいる。また、評価規準・方法も明確にした授業が行われている。</p> <p>○道徳の時間が計画的に実施され、豊かな心を育む指導をしているという回答率が大幅にあがった。</p> <p>△個への配慮や教材・教具の活用については、さらに工夫改善していく必要がある。</p> <p>△宿題や家庭学習の指導については、生徒アンケートの目標時間をクリアしている割合が約7割と昨年を下回っているため、さらに取り組んでいく必要がある。</p> <p>△生徒一人一人が、学校の授業を楽しく感じ、学ぶ楽しさをさらに実感できるよう、個に配慮した授業に、学校として取組を進めていく。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートから、「授業が楽しい」「授業がわかる」「授業中に発言や発表をする」と答えた割合が前年度より低くなっていることを踏まえ、生徒の学習実態を的確に分析し、個に配慮したわかる授業や学ぶ意欲を喚起する授業づくり、「やまなしスタンダード」を意識した授業改善の取組を継続する。 ・家庭学習の充実や主体的な学習習慣の確立に向けた取組を、校内研究を中心に、学校が一丸となってさらに進めていく必要がある。 ・個々の学習状況や学力を多角多面的な方法で的確に把握し、それに応じた指導方法や教材教具の活用を工夫し、わかる授業づくり、校内研究のテーマでもある「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善にも努めていく。

IV 生徒指導について	
達成	<p>○教職員は、生徒理解のために生徒と積極的にコミュニケーションをとっている。(毎日の生活ノートや休み時間の会話など) また、規範意識を育む指導や生き方教育にも意欲的に取り組んでいる。</p>

成 状 況	<p>○関係機関や保護者・地域との連携が積極的に行われている。</p> <p>○不登校の生徒や自学教室登校の生徒に対して、担任や担当のきめ細かな配慮と、多くの教職員が係わって指導を行っている。</p> <p>△生徒指導上の課題の共有，組織的対応や特別支援教育の支援体制を，進めていく必要がある。</p>
改 善 策	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が，生徒一人一人とのコミュニケーションを大切にしながら，生徒理解，共感的理解に努め，未然防止や生き方指導，進路指導など，積極的な生徒指導も行う。 ・いじめの未然防止と早期発見・早期対応ができるよう，日常的にアンテナを高くし，生徒の状況把握に努める。また，いじめ防止対策委員会等の機能も充実させていく。 ・「報告・連絡・相談・確認」を確実にし，生徒指導上の課題を全職員が共有し，迅速かつ適切に組織的な対応をしていく。また，特別支援教育の支援体制も，より機能的なものとしていく。 ・生徒指導部会や不登校対策委員会を，より有効に機能させていく。

V 地域との連携について	
達 成 状 況	<p>○学校HPの更新回数が多いため，HPの閲覧者数は増加している。また，各種たよりの発行等を通して，学校の情報を積極的に発信し，本校の教育活動への理解を推し進めている。</p> <p>○本校のPTA活動の一つの特色である「一人一活動」への協力では，のべ700人以上の協力が得られ，各活動が円滑に実施された。その他，保護者参加行事へも積極的な参加があり，保護者も非常に協力的である。</p> <p>△地域人材や施設活用を含め，地域の教育力を生かす方策を検討していく必要がある。</p> <p>△保護者がPTA活動に協力的であるため，教職員もより一層，保護者や地域の願いや要望を聞く機会を工夫し，情報収集にも積極的に努めていく。</p>
改 善 策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材や施設の活用について各教科，道徳，総合的な学習の時間，特別活動の中で検討し，実践していく。 ・保護者や地域住民に対する学校解放の機会を増やし，敷中教育への理解を一層深める。 ・保護者や地域の願いや要望を聞くような機会が設けられることで，保護者や地域の方々の考えや教育的ニーズを知ることができると考えられる。 ・教職員と保護者が，PTA活動に主体的に関わっていけるような取組を考えていく。

VI 学校の特色に関して	
達 成 状 況	<p>○合唱活動，リサイクル活動など，本校の伝統的な活動や朝の読書活動を大切にし，継続した取組が行われている。</p> <p>○授業参観，年輪祭，合唱祭などへの参加協力など，学校の教育に対する理解と協力が得られている。</p> <p>△朝読書等への取組により，前年度より生徒の読書量は増えている。しかし，依然低い水準にとどまっている。</p>
改 善 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がより進んで挨拶をできるような取組を行っていききたい。 ・生徒の約3割は「読書をしない」と答えている実態がある。短い時間でも読書をする習慣がつくよう，取り組む。

3 まとめ

<成果>

- ・多くの教職員が学校教育目標実現に向けて、学校長の学校経営方針に基づいた多様な取組をP D C Aサイクルを意識して実践している。また、本校の教職員が「協働」する大切さを理解し、職員間の連携を意識しながら、「報・連・相・確」の実践等一人一人が取り組むよう努めている。
- ・学習指導については、「わかる授業」「基礎基本の定着を図る授業」への取組を行っている。今後、「やまなしスタンダード」への取組や、校内研究のテーマである「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組も継続して進めていく必要がある。
- ・より落ち着いた雰囲気のもと、教育活動が展開されている。そのような環境の中、より一人一人の生徒に寄り添った指導を継続していく。

<課題>

- ・昨年度及び、今年度の学校評価の結果を踏まえ、本校の課題及び改善策を全教職員が共有し、学校運営改善の取組を行っていく。様々な活動において、P D C Aの段階を丁寧に行い、教育活動の工夫・改善を進める。
- ・すべての教職員が自己の分掌や役割を認識し、他の教職員と連携、協働する中で、主体的に学校運営へ参画していく意識の更なる向上を図る。連携・協働をさらに進めることによって、同僚性を高め、学校の活性化を図っていくようにしたい。
- ・学習指導、生徒指導、生活指導はこれでよいというものはない。課題に気づく目を持ち、組織をフルに活用して改善、向上を目指したい。
- ・保護者、地域と学校の連携を推進し、開かれた学校づくり、信頼される学校づくりを一層進める。